

J Aあしきた青壮年部活動報告

J Aあしきた青壮年部は、田浦・芦北・津奈木・水俣の4支部で構成され、盟友数は33名と県内最小の組織です。しかし、組織は市川大地部長、各支部を中心にまとまりがあり、将来の地域の担い手の中核という自覚を持って青壮年部活動に取り組んでいます。

毎年開催で定着したイベント

婚活事業は、昨年まで5年連続で開催しています。男性は青壮年部員の未婚者を対象として取り組んでいます。また、近年はJ Aの未婚男性職員にも声をかけ20対20程度で開催しています。イベント内では、芦北・水俣の恵まれた大自然の中で育った、「アゴポン」あしきた牛・サラたまちゃんなどの農畜産物の他、不知火海で獲れた海産物や加工品まで、まるごと芦北を発信し



▲「農恋 in あしきた」実れ！恋といちご

魅力を感じてもらっています。過去5回の開催で、結婚まで結びついたカップルがなんと2組誕生しました。また、J A男性職員も参加することで、普段面識のない青壮年部員と職員のつながりにも貢献する取り組みとなっています。

直売所を活用した販売イベント

ファーマーズマーケットでこぼん（現 道の駅芦北でこぼん）も活用しています。日常の農産物の直売はもち



▲「道の駅芦北でこぼん」での直販風景

ろん、ゴールデンウィークにはかき氷や甘夏ジュース販売、夏休み期間中には串焼き販売、12月にはJ A女性部との合同の取り組みとして、つきたての餅の無料配布などのイベントを開催しました。また、「コンビニ セブンイレブンにて開催された『セブン夜市』」にも参加。様々な販売に自らが考え取り組むことで、「どのような商品が売れるのか」、「どうしたら売れるのか」といった消費者ニーズを的確にとらえる販売力を養っています。



▲「田浦セブン夜市」での地域交流

青壮年部学習会を開催

青壮年部としての役割、J A組織としてのつながり、今後の担い手として

の自覚など青壮年部にかける期待は大きいものがあります。J A常勤役員との意見交換の他、「J A青壮年部に期待すること」をテーマに講師を招いての勉強会も開催しています。



▲「青壮年部学習会」での真剣な様子

人材育成としての新たな取り組み

青壮年部はJ Aとタッグを組み、盟友個々の人材育成にも積極的に取り組んでいます。新たな取り組みとして、経営に特化した研修会を予定しているほか、消費地においての農畜産物販売の市場取引に関する協議には、青壮年部も数名必ず参加します。消費地や流通、社会情勢、また加工品への取り組みを知ることで産地での生産に活かしていきます。